先生、ご存知ですか？

子どもたちをヒトスジシマカから守る秘訣は、「秋冬の水溜り」の越冬卵駆除です。

保育園の先生、施設の管理者の皆さま、こんにちは。 真夏の午後、「今日はお外、暑いから少しだけね」と子どもたちに声をかける…そんな光景も、少しずつ涼しい風に変わっていく季節ですね。

実は、子どもたちが元気に外遊びできる朝や夕方の時間帯は、蚊にとっても吸血と産卵のためのゴールデンタイム。「あ、また刺されちゃった…」と腕をさする子の姿に、心を痛める先生も多いのではないでしょうか。

「夏が終われば蚊もいなくなる」と思いがちですが、実は**来年の夏、子どもたちを蚊の悩みから解放するための最大のチャンスは、まさにこれから迎える「秋冬の蚊非活動期」にあるのです。

🍂 落ち葉の季節が、来年の蚊を減らす最大のチャンスです

「え？秋に蚊の対策？」と不思議に思われるかもしれません。

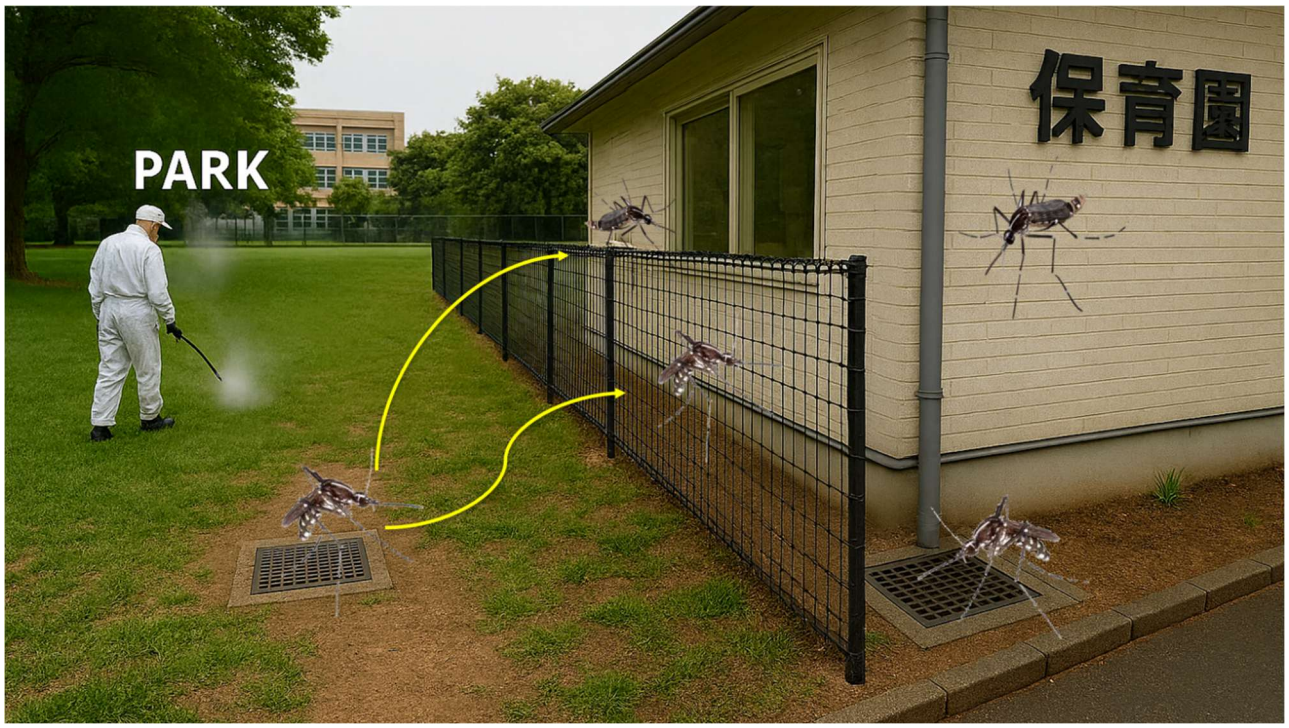
私たちを悩ませるヒトスジシマカは、寒くなると**「卵」の状態で冬を越します**。 つまり、落ち葉が舞うこの時期に、蚊が卵を産み付ける場所を保育園の中からなくしてしまえば、翌年の春に孵化する蚊の数を劇的に減らすことができるのです。

秋冬のひと手間が、来年子どもたちの笑顔を守る、最も効果的でやさしい予防策になります。

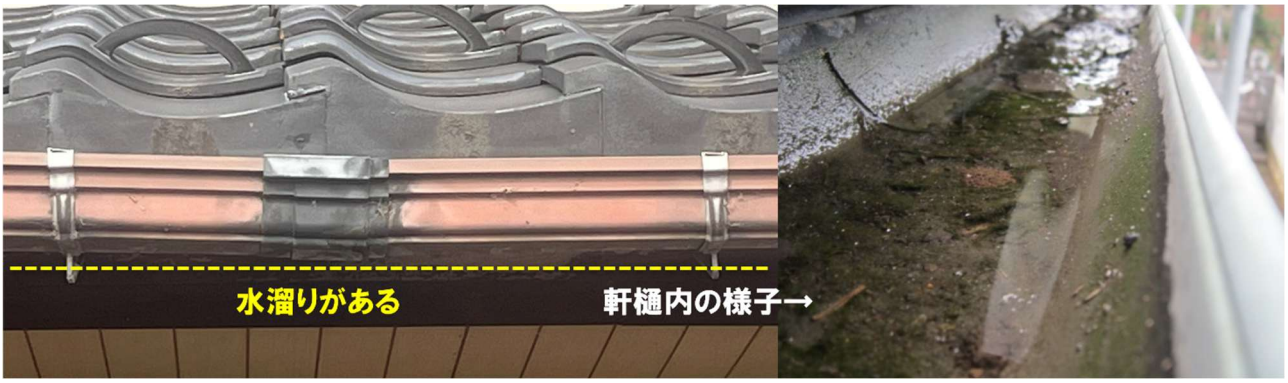
🦟 園のどこに？見過ごされがちな「蚊のすみか」

では、蚊は保育園のどこに卵を産むのでしょうか。 近くの公園や霊園などで殺虫剤が撒かれると、蚊は命がけで安全な場所を探し、保育園内に避難してくることがあります。

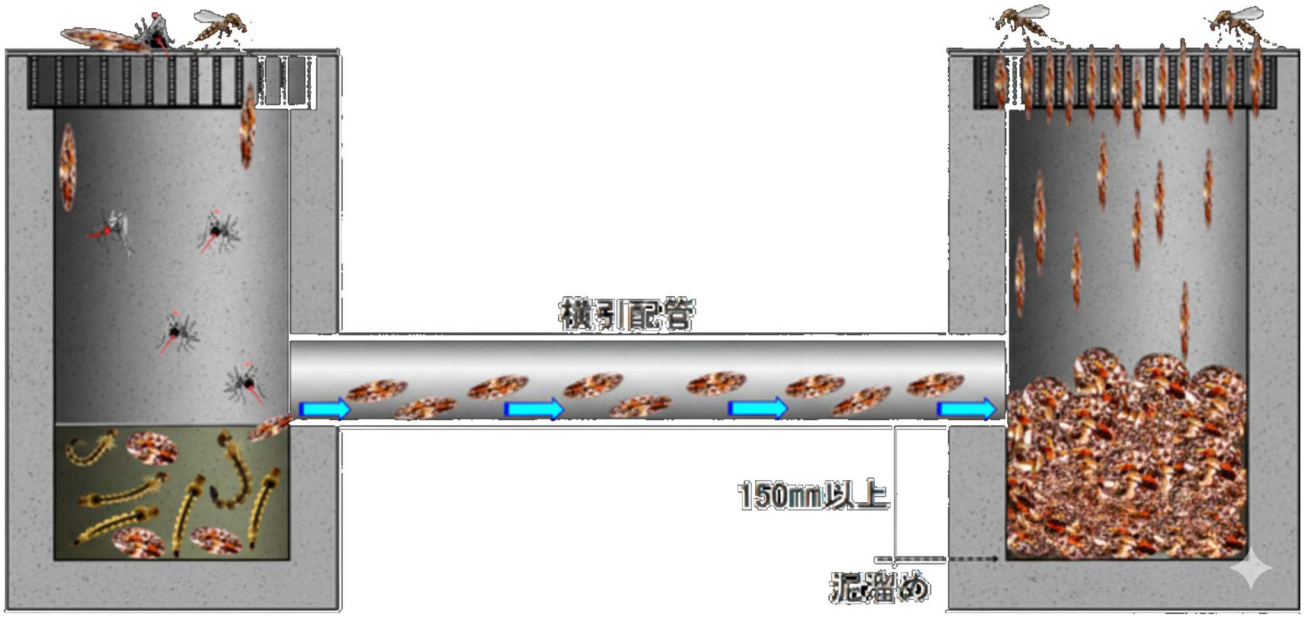
そして、先生方の目が届きにくい、軒樋や、雨水桝等の保育園の中の**“雨水の集排水路や小さな水たまり”**に卵を産み付け、そこを繁殖の拠点にしてしまうのです。



1. **建物の「軒樋（のきどい）」が“蚊の保育所”に…** 屋根の雨水を集める軒樋。落ち葉や砂が溜まると水の流れがせき止められ、雨が上がっても水が残りがちです。そこに新たな落ち葉が付着し勾配が崩れ、雨水が溜まって、蚊にとって格好の産卵場所になってしまいます。



2. **地面の「雨水桝（うすいます）」は“最高の繁殖基地”に…** 建物の隅にある雨水桝のグレーチングを開けると、概ね 150 ㎜の泥や水が溜まる構造になっています。ここは蚊にとって、天敵も少なく、安全に卵を産み育てられる最高の環境なのです。



蚊の繁殖できる環境。　　排水障害を起こしている。

私たちは知らず知らずのうちに、**子どもを守る園で蚊を育ててしまっている**のかもしれません。

🚫 「刺されてから」の対策では、もう終わりにしませんか？

「子どもが蚊に刺された」という事実は、単に「かゆい」という問題だけではありません。 メスの蚊は、産卵に必要な栄養を摂るために血を吸います。

つまり、**子どもを刺した 1 匹の蚊を見逃すことは、その蚊が園内のどこかで数百個の卵を産み、次世代の蚊を増やす手助けをしてしまうことと同じ**なのです。

薬剤を撒いても雨で流され、効果は長続きしません。蚊のたくましい生命力には、後追いの対策だけでは追いつかないのが現実です。だから吸血した蚊は必ず駆除してください。

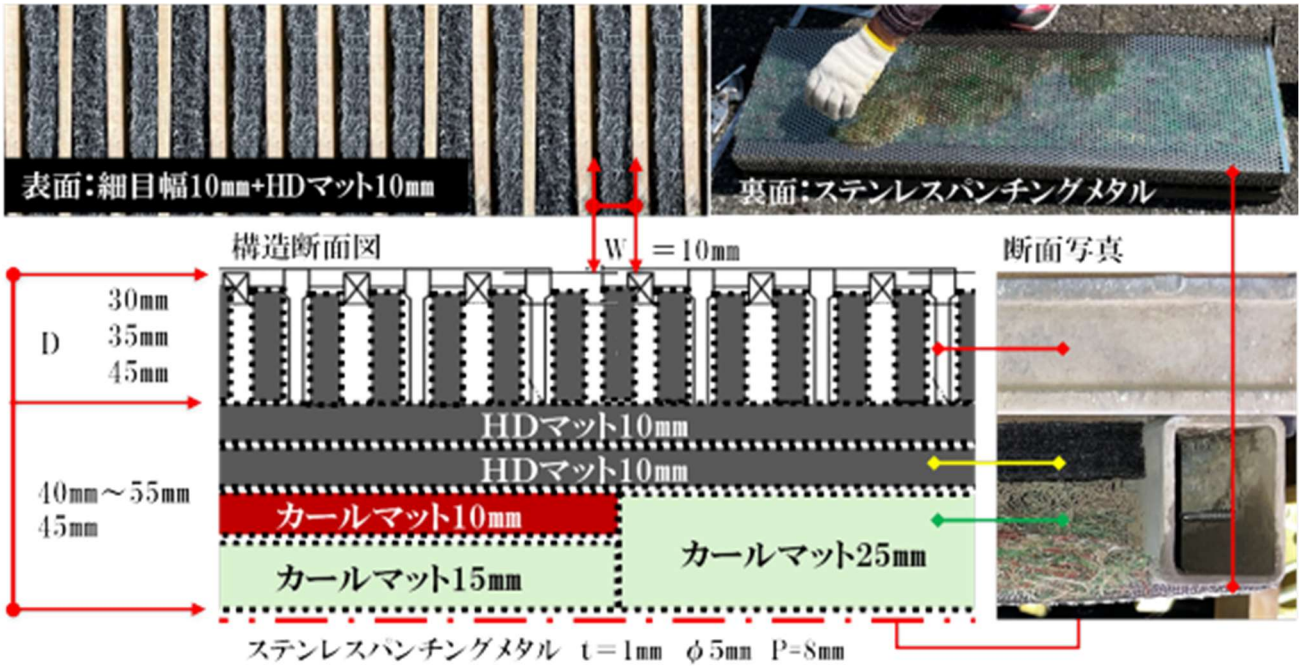
💡 解決の鍵は、蚊が「住めない環境」をつくること

そこで、私たちからのご提案です。 蚊を「退治」するのではなく、そもそも蚊が**「住み着くことができない」環境**を保育園に作りませんか？

薬剤に頼らず、子どもたちにも自然にもやさしい方法があります。 それが極細分別集水化の可能な、「分別集水マット（蚊絶滅マット）」のような物理的防除の設置です。

仕組みはとてもシンプル。 雨水桝や軒樋の水の入り口にこのマットを設置するだけ。 落ち葉やゴミはしっかりキャッチしながら、雨水だけをスムーズに流し、蚊の侵入と産卵を物理的にシャットアウトします。

下記は極細分別集水化が可能な、分別集水マットの、雨水桝、U 字溝用の構造断面詳細図です。



雨水桝、U 字溝用:籠式施工手順

雨水桝用:充填式施工手順

軒樋用:施工手順

🏫 「守る園」から、保護者に「選ばれる園」へ

子どもたちの健やかな笑顔を守りたい。その想いは、皆さまと同じです。 虫よけスプレーや長袖に頼るだけでなく、園の環境そのものを整えることが、本当の意味での「予防」の第一歩です。

先生方も、数年前にニュースで大きく報じられたことを覚えていらっしゃるかもしれません。2014 年に代々木公園を中心に広がったデング熱のこと。そして 2016 年リオオリンピック前に、ジカ熱の世界的拡散の恐怖！しかし新型コロナの拡散でやや忘れられている気がします。

これらの**感染症を媒介するヒトスジシマカ**は、実は日本で最もよく見かける、ごく身近な蚊で、都市部の雨水桝に生息している蚊の約 7 割に及ぶと言われています。

その為今は見かけなくても、現在の管理方法のままでは、いつの間にか住み着いてしまう可能性は、残念ながらどの雨水桝にもあります。

知らず知らずのうちに、子どもたちが集う大切な場所が、感染症を広げる拠点の一つになってしまう…。そんな悲しい事態を避けるためにも、**「分別集水マット」で物理的に蚊が住めない環境を手に入れる**という選択が、合理的且つ効果的とデーターが示しています。

環境への確かな配慮は、子どもたちの安全を盤石にするだけでなく、「この保育園なら、万が一の時も安心して子どもを預けられる」という、保護者からの揺るぎない信頼に繋がっていくはずです。

🌱 まずは園内の“雨水の集排水路”をチェックしてみませんか？

この秋、来年の子どもたちのために、ぜひ一度、園の周りを点検してみてください。

- **軒樋**は竪樋に向かって勾配がついいています。もし何処かで勾配が悪ければ水が溜まっています。排水勾配の分かる写真を撮ってください。
- **雨水桝**のグレーチングやフタを開けると、雨水が残っていますがボウフラが居ませんか？又は落ち葉や泥で排水障害を起こしていませんか？現状写真を撮ってください。
- プランターの**鉢受け**や、使っていない遊具の下に水が溜まっていませんか？水替えの際一度たまった水を捨ててから水を差してください。

この小さな点検が、大きな安心につながります。もし、「うちの園はどうだろう？」とご心配な点や、対策の方法にご不安がございましたら、どうぞお気軽にご相談ください。

又、毎年年末や年度末の忙しい時に、やり難い場所の大掃除を増やしたくない、と思われる皆様は、雨水の集排水路の極細分別集水化の導入をお考え下さい。

導入後は降雨後の周辺清掃と同時に集水口のブロ―又は掃き清掃だけで、あるべき姿の雨排水路が維持され、蚊は住めなくなります。

点検時に撮った写真と、建物の、軒樋や雨水桝の位置関係と寸法がわかる写真などを下記アドレスまでお送りいただけましたら、専門家が**無償で環境診断と改善のアドバイス**をさせていただきます。

尚、お見積もり依頼の場合には、雨水桝や、U 字溝の正確な寸法、と個数、軒樋の型番とメーター数等が必要に成りますので、別途ご相談ください

一般社団法人産学技術協会

相談係

Email : :aiuto_lab@sangaku.org